

種貸社

種貸社は初辰まいりの最初の場所である。この神社では穀物や農業の神である稲荷の化身の一つとされる神、倉稲魂命を祀る。

種を意味する「タネ」にちなんで種蒔や豊穰と関連があるこの神社は、農業関係者以外にも人気のある神社である。初辰まいりでは、事業を成功させるための初期段階で必要な投資や努力を表している。また、子宝に恵まれることを願う人々もこの神社に参拝する。種貸社では、子どもを抱く母親の姿をかたどった小さな土人形を販売しており、これは子授けと出産のお守りとなっている。

種貸社は、少なくとも平安時代（794-1185）初期から存在しており、政府の財政支援を受けた神社のリストに記録されている。もともとは2キロ離れた場所にあったが、16世紀の火災で住吉大社に移転した。